

今回は、「仕事の誤解」という小冊子からです。

×時間が少ないと仕事の質が落ちるとするのは誤解だ！

パーキンソンの法則というものがある。「仕事は、与えられた時間によっていくらでも延びる」というのがこの法則の意味するところだ。深い言葉である。例えば納期が 10 日後の仕事を依頼されたのであれば、10 日目を納期としたスケジュールを組む。なのに、同じ仕事でも 1 ヶ月の納期と言われれば、1 ヶ月目を納期としたスケジュールを立てる。10 日に対して 3 分の 1 のスローペースの仕事の進め方となる。まして、納期が設定されていなければ、スローペースどころか、相手に催促されるまで仕事に取り掛かろうともしない。こんな仕事の悪習慣がわれわれにある、ということパーキンソンの法則は、グサッと指摘するのである。あなたはそんなことはないと言い切れるだろうか？

### ※「人間八則」を知る

この悪習を人間の弱点として裏付けたのが、日本のコンピューターの基礎を築いた物理学者の高橋英俊先生の「人間八則」である。

人間は、もともと、

- ・気まぐれである
- ・不注意である
- ・根気がない
- ・理論的思考が弱い
- ・怠け者である
- ・忘れっぽい
- ・ノロマである
- ・何をすればよいか分からない

と耳の痛い 8 項目をあげる。

高橋英俊先生は、コンピューターはこの 8 項目をクリアにしてしまうと言う。そうすると、人間は負けてしまうゾ！そう指摘しながらコンピューターに振り回されないためにと、次の言葉を教えている。

「われわれは、こうした人間特性（悪習）をもっていることを知っておくことが肝心だ。」

誠にその通りである。仕事ははかどらないとき。やる気が出ないとき。そんなときは、自分の起こした『人間八則』に問題があったのではないかと、自問自答してみることが必要である。

パーキンソンの法則とは何ですか？

( )

高橋英俊先生の「人間八則」を 8 つ書いてください

( ) ( )

( ) ( )

( ) ( )

( ) ( )

